

教材として英語絵本を活用

— 幼児教育学科における英語演習の授業 —

昆 布 孝 子

奈良文化女子短期大学

English Learning via English Picture Books — English Classes for Students in Early Childhood Education and Care —

Takako Kombu

Narabunka Women's College

幼児・児童の早期英語教育における言語活動のためには、歌、手遊び、絵本の読み聞かせが実施されている。中でも絵本はことばを教えるだけでなく、子どもの日常生活の約束や決まりごとなど多くのことを教える重要な役割を果たしている。英語の授業に絵本を活用すれば、英語の語彙、文法の学習だけでなく、異文化、多文化理解にもなり、国際化する社会に対応できる幼児教育学専攻の学生の育成につながると思う。2012-2013年度、奈良文化女子短期大学幼児教育学科の1・2回生に英語絵本を使った授業を実施した。その授業をまとめ、授業の内容を検証し、今後の幼児教育学科の一般教養の英語演習授業を考察する。

キーワード：絵本、幼児教育、英語、異文化、多文化理解

1. はじめに

2012年度に奈良文化女子短期大学幼児教育学科、1回生、英語Ⅰ（基礎）英語Ⅰ（応用）、2回生、英語コミュニケーションⅠ、Ⅱの授業担当となり、英語教材、内容を検討する上で、次の2点を考察し、英語の授業の一部に幼児教育と関係深い絵本を活用する授業を実施した。

第一に、学生の英語に対する状況を考察する。中学・高校の6年間に、学生が学習した英語といえば、文法・文型指導型、訳読中心の受験勉強中心の授業であった。その結果、文法用語や文型が理解できない、和訳ができないことで、中学後半または、高等学校入学時より、英語の授業は理解できないまま、英語嫌い、英語アレルギーになったという学生が多い。一方英語検定を受験した経験もあり、英語の知識、技能を取得した学生もいる。学生は英語力が乏しいというよりも、受験英語に対して極度にアレルギー反応を示している。学生のその状態は改善する機会も得ず、今に至ったと思う。学生の多くは英語の本をもっと読みたい、コミュニケーション能力もつけたいと希望していることも事実である。

第二に考察したのは、英語絵本を教材にした学習する意義である。学生の英語のリメリアル、英語ア

レルギーの改善を鑑み、幼児教育学科の一般教養英語の英語副教材にして授業で英語絵本の活用を考えた。

そして、2013年度は、2012度の実践を踏まえて、使用する英語絵本や授業のカリキュラム・デザインなどを精査して進めていく。学生のほぼ全員が保育士、幼稚園教師となり、幼児たちの保育の一環として多種多様な絵本を読み聞かせをするのは確かなので、2歳から6歳頃までの子どもが使用している絵本を調査し、それらの中に、授業の教材として活用することとする。その際に次の2点に重点を置いた。

- ① 使用する英語の絵本は、学生が理解し易いものにして、学生が積極的に授業に参加できるものに努める。
- ② 使用する絵本は、学生が幼児教育現場で活用できる教材、授業内容になるよう努める。

2. 外国語教育と英語絵本について

絵本の特徴としては、絵本で使用されている英語は大変易しく、分かりやすい。しかも文法的には正しい英文が使用されている。絵がメインの本から、文字の多い絵物語までと多種多様な絵本が揃っている。保育園から中学校までの英語教育現場での絵本の役割や活用状況を考察する。

2.1 幼児教育と絵本

世の東西を問わず、幼児教育では絵本は欠かせない。寝る前に母親に読んでもらった、保育園や幼稚園で読んでもらった絵本は、生涯忘れないものとなっている。絵本は言語習得のために使用するだけでなく、幼児は日常の遊びや生活の中で、四季の変化、習慣、文化行事、風習を学ぶ。そんな日常さまざまな出来事を題材にした本を読んでもらうことで、絵本の主人公となって追体験することで、集団生活、社会生活での必要なことを習得する。時には、宇宙、海底、外国を描いた絵本を見る、聞くことで、自然に異文化、多文化体験すると同時にその理解につながる。子どもたちは、このように絵本を通して、疑似体験することで、創造・想像する力を高めている。

幼児教育学科の学生は、専門科目の授業で、絵本の多様な活用目的、教育的効用を学習する。またその絵本の効果的な活用法を日々学んでいる。2012年秋に、保育実習に参加した1回生43名に簡単なアンケートを実施した。実習保育園・保育所（奈良市、奈良県北部の私立及び公立）での外国語（英語）学習の有無、対象児、指導者、教材や授業内容を問うた。英語の授業を実施している所が多かった。その内容は、英語の歌やゲームをし、英語絵本や紙芝居を使って読み聞かせも実施していた。（データを数値化するには、1つの保育園に複数の学生が実習したなど不十分なものになったので未提示とする。）

2.2 小学校の英語教育と英語絵本

小学校現場では、総合学習としての外国語教育が、1つの教科としての外国語（英語）教育にかわり、英語が必須教科へと、大きく変遷してきている。その間、小学校教員をはじめ小中高大の英語教育関係者は、様々な研究会で、モデル授業見学、DVDによる実践報告など様々な課題を討論してきた。

英語研究会の小学校の英語教育実践報告では、小学校での課題として、文部科学省で提示された教科書「英語ノート」を使用し、学級担任が英語の授業をする。絵本などの教材、教具をどのように使用して英語の授業を展開、発展させて行くか試行錯誤していた。ALT や英語専科の教師が指導に当たっていない学校が多く、指導力の格差も生じていることは今後の問題となる。このような状態で小学校英語を学習した児童が、中学校英語学習にどのように接続するかという新たな課題を感じた。

京都教育大学附属京都小・中学校の教育実践協議会に参加し、英語の公開授業（平成22年、平成24年）を参観した。「英語教育改善のための調査研究事業」（2009・2011）¹⁾ 報告書の中で、英語活動として、歌、チャンツ、タスク、絵本の読み聞かせと、小中一貫カリキュラムとして、学年毎のカリキュラムが（小1から中学3年）デザインされていた。公開授業では、そのカリキュラムに沿って、ネイティブの教師と日本人教師が英語のチームティィティングが実施を参観した。ネイティブが大型絵本の読み聞かせをした後に、教師はその絵本の内容を確認するに、タスクワークを生徒に課した。グループに分かれた生徒たちは話し合いをしながら作業を進め、各グループがクラスの中で自分たちのタスクを発表した。

立命館小学校の英語授業、朝のモジュールの時間を見学した。モジュール制の時間で子どもたちはDVD（絵本）の画面を見ながら聞える音声を合わせて読み（オーバーラッピング）をしていた。児童の中には身体全体を使ってリズムよく英語を読んでいたのが印象的だった。

公開授業協議会（平成24年度）の文科会の齋藤栄二（2009）の講演レジメ²⁾で「皆さんへのメッセージ～『問題点として感じたこと』—絵本の価値を理解しない指導—」の中で絵本についての先生の意見が書かれていた。『・・・私、齋藤は絵本の価値を重要だと思っている者です。日本の生徒は中学校から英語を習い始め、彼らには英語は人工語ようで、最初から文法の説明からスタートさせます。・・・中学校から無味乾燥な人工語でスタートする。・・・その無味乾燥さを小学校の英語教育がスタートするときに打破しなければ、という感じを強く持っていました。（中略）・・・絵本については小学校での教育の中での重要な位置づけを持っている。私としては、絵本の中の英文を全部理解することができない限り絵本は意味ないという考え方は狭すぎるとように思います・・・』と述べられていた。

齋藤先生が、絵本の効用を否定することは、子どもが持つ優れた推測力に気が付いていないと語られたのが心に残り、幼児教育専攻の学生の英語の授業に絵本を採用し、授業を通して、絵とことばの持つ力を指導したいと考えるようになった。

2.3 中学校での多読と絵本（Oxford Reading Tree 他）

最近、中学校では、英語の学習法として、多読学習を取り入れている学校が多数ある。多読学習とは、辞書を引かなくても読める程度の易しい英語で書かれた本や易しい語彙数の絵本（ORT など）を、多量に読む学習の方法である。初心者でも、絵を手掛かりとして辞書なしで、英文が読め、理解することができる。また英文も1ページに一文と言う中学教科書よりもかなりやさしいレベルの基本的な英語から順次レベルを上げた本まで多量に読むことができる。教科書指導とは異なり、生徒は自主的に好きな本を読み、その本が何冊読めた、読めた語彙数はどれだけかを記録し、点数化することで客観的に自分の英語力の変化を確認できる。生徒は達成感を味わい、学習意欲を高めて、無理なく楽しく英語の本を読む学習法である。

3. 2012年度－2013年度（前期）の英語授業実践報告

奈良文化女子短期大学幼児教育学科での英語演習授業で英語絵本を活用した実践をまとめ、反省、課題を考察し今後の授業を再構築してゆく。この授業で工夫したこと、重点を置いたことを整理してみる。

3.1 時間配分として

2012年度では、1・2回生共に1回の授業90分を三分割にし、60分程度をメインのテキストを使った授業をし、約30分を絵本を使って授業にした。2013年度前期では、2012年度の反省と本年度の学生の英語の事態を考えて、授業のほぼ半分近く、40分は絵本を使った授業へと変更して実施している。

3.2 音声指導に重点を置いた

学生が保育所などで、英語絵本を読み聞かせすることを考えて、絵本を選択した。絵本では繰り返しが多く、使用される文字や文型の数が少ない。絵を手がかりに英文や話の内容が容易に理解できる。子どもは聞いた音やリズムを簡単に記憶するので、学生には絵本を正確に読むことを求め、音声指導に重きを置いた授業を進めた。個々の単語も日本語的な発音にならぬように、英語の抑揚もリズムで正確に読めるように、時間をかけて音声指導することに努めた。学生には毎時間、単語や数行の英文を読ませる、また1冊の絵本を学習し終える度に、他の学生の前で発表させた。正確に発音し、また効果的に読むことで、読み手と聞き手が絵本の主人公に共感して、楽しさや不思議さ体験できるように努めている。

授業では、個々の単語の発音はもとより、英文をリズムよく読むために、フォニックス、チャンツ（Jazz chant）、ライムやチャンクなどの英語独自の音声指導に重点を置く。

3.2.1 フォニックスについて

日本語の特徴は「文字と音」が同じであるのに対して、英語は「文字と音」が異なる。英単語のつづりを覚え、書くことが大変だった人が多い。アメリカの小学生も同じ経験をするので、文字指導の初めに、音と文字の関係を理解させるフォニックス学習をする。音を正確に発音する、単語を読むために、基本的なフォニックスのルールを学習する。

(1) フォニックスでのアルファベット読み方の練習（アルファベットと文字と音の関係を学習）

表1. フォニックス読みのアルファベット

a	b	c	d	e	f	g	h	i	j
エア	ブ	ク	ドウツ	エ	フ	グ	ハ	イ	ジュ
k	l	m	n	o	p	q	r	s	t
ク	ル	ム	ン	オ	プ	クワ	ウル	ス	ツウ
u	v	w	x	y	z				
ア	ヴ	ウワ	クス	イヤ	ズイ				

(2) 下記のようにアルファベット順に各単語をフォニックス（文字と音の関係）で学習

a a apple, b b bat, c c cat, d d dog, など。

(3) 授業で進出した単語でフォニックスを練習

① 語頭と音の関係の学習

pan pat pen pin pill pot
cap cake can core
bat back bill bit bull

② 語尾と音の関係の学習

ball call fall tall wall
at cat fat hat sat
ox box fox oxygen
bog dog fog frog hog log
bake cake make take

3.2.2 チャンツ、ライム（音韻）チャンクの学習

日本語は高・低で読むので殆どリズム、抑揚をつけない。一方、英語は強・弱で読み、英文を読むときはリズムや抑揚が必要となる。常にアクセント、弱・強声音、音節に気をつけて英単語は発音しなければならない。単語、語彙、文章の音声練習として、チャンツ、ライム、チャンクを活用し、英語のリズムで音読できるようにする。練習する際には、全体で読む以外に、学生がソロで、ペアを組んで練習し、他の学生の前で発表する。

(1) 語彙をチャンツ (Jazz chant) で練習

語彙をリズム良く発音練習するために、絵本に出てくる単語を自由に組み合わせ、独自のチャンツを作る。そのチャンツを練習する際には、机を指で軽く打つ、または手拍子を打つなどリズムを取りながら音声練習する。(1967³⁾ : Brown Bear, Brown Bear, what Do You See? 1993⁴⁾ : Today Is Monday から)

例1 動物 ¹bear ¹bear ²bird ³duck, ¹bear ¹bear ²bird ³duck,
 ¹bear ²bird, ¹bear ³duck, ¹bear ¹bear ²bird ³duck,
例2 色 ¹purple ¹purple ²green, ¹purple ¹purple ²green,
 ¹purple ²green, ¹purple ²green, ¹purple ¹purple ²green,
例3 食物 ¹fish ¹fish ²beef ³icecream, ¹fish ¹fish ²beef ³icecream,
 ¹fish ¹fish ²beef, ¹fish ¹fish ²beef,
 ¹fish ¹fish ²beef ³icecream,

(2) ライム（音韻）の練習

単語はフォニックスの「語尾と音の関係」で練習した。英文についてはナーサリライム、マザーグース、絵本の中にあるライム（音韻）を確認し、正確に韻を踏ませて、口頭練習をする。また、DVD⁵⁾（静哲人 ジャパンライム）を活用した。

例1 Twinkle twinkle little star, How I wonder what you are

Like a diamond in the sky, Twinkle twinkle little star
 How I wonder what you are
 例2 Eeney meene miney moe Catch a tiger by the toe
 If he hollers, let him go Eeney meene miney moe
 You are it !

(3) チャンク（音のかたまりをつくる）、リエゾン（音を繋ぐ）の練習

英語音節読みを練習する。基本的な英語音節を説明し、出来るだけ多くの語句をチャンクで読む練習をする。基本練習として①音の無声化 ②同じ単語の強声と弱声の読み方 ③単語と単語の連携を知る。チャンク（数語の単語を連れてかたまりを作る）を読む時、それぞれの単語の最後の子音と次の単語の頭の母音をつなげながら読んで行くことで、新しい英語音節が生まれ、それを読む練習する。学生は歌を歌っても字余りになるとか、聞き取れなかった音節が理解できるようになるなど、英語聴力アップにつながっている。

例1 : catch a tiger = ca cha tai ger (cat の t は無声化、リエゾン)

例2 : If he hollers = I fi ho llers (弱声音 リエゾン)

例3 : Come and eat it up = c ma ni ti tup (o の無声化 リエゾン)

3.3 Flash card, Picture card の利用

学生が正確に語句を読めているか、また発音が正しいかを確認するために Flash Card を活用する。個々の学生に flash card だけでなく Picture Card も同様に活用して、読みを確認する。何回も単語・熟語練習をすると飽きる学生も、ソロで、ペアで読む、カードを利用して読むなどと変化を持たせた。カードをフラッシュさせる事で学生の緊張感を高め、スピードアップにつながり、授業のメリハリができた。

3.4 CD、DVD を活用

正確な発音で英文をリズム良く読む方法として CD、DVD は有効である。教師が肉声で読むことは、より多くの情報を学生に与えるので大変有効であることはいうまでもない。CD 付きの絵本があれば、絵本を見せながら、CD の英文に重ね合わせて読む（オーバーラッピング）練習ができる。上手くできるようになれば、絵本（英文）を見ないで CD を聞きながら読む（シャドーイング）こともできる。絵本を読むバリエーションが生まれ、飽きることなく読む回数多くできる。CD では常に模範となる発音を聞いて単語、英文を練習ができ、物語全体のリズム、抑揚を付けることができる。CD によっては、英文を読む以外に英文をチャンツで読んでいたり、歌にしているものもある。効果的な活用が期待できる。

3.5 ライティングの指導・絵本の創作

絵本を使った授業でのライティングの学習は、単語、語句、一文の言い換え、書き換えが多かった。また、2年生の授業では、日本語の絵本を英語に翻訳をした。学生の中には絵が得意なものが多く、元の絵本を参考にして、基本文の一部を自分の言葉に書き換えた簡易な絵本を創作させた。

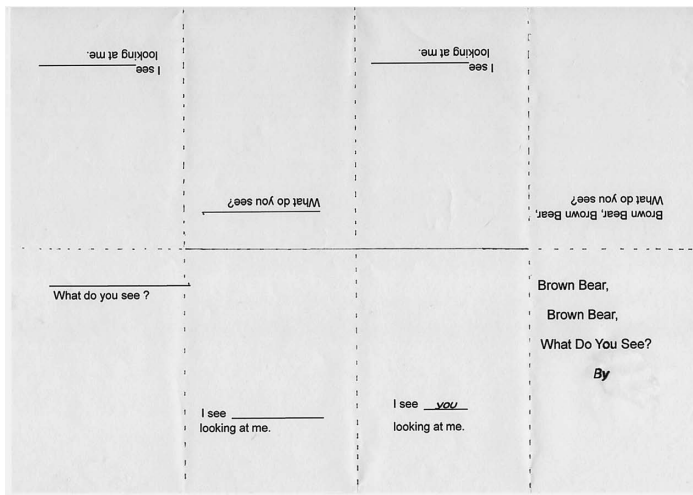


図1 2012年度 絵本原本 “Brown Bear, Brown Bear, What Do You See?”

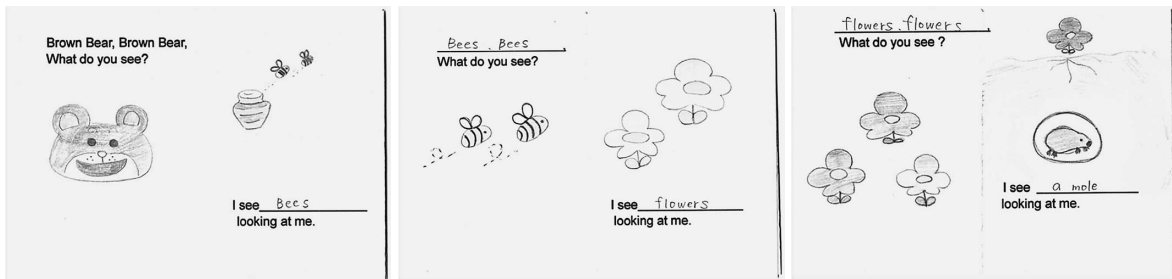


図2 2012年度生徒作品 “Brown Bear, Brown Bear, What Do You See?”

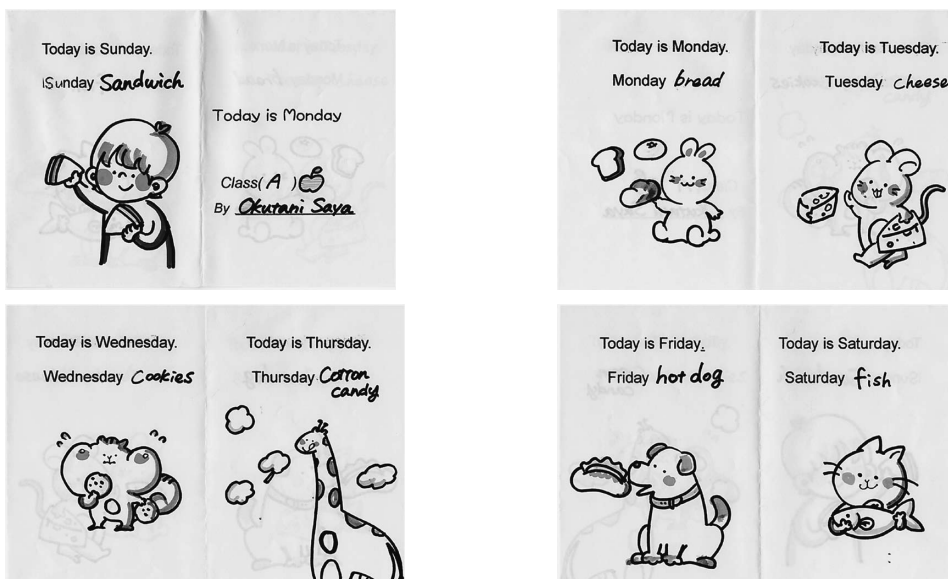


図3 2013年度生徒作品 “Today Is Monday!”



図4 2013年度生徒作品 “I like it when ….”

4. 2012-2013年度学生による授業感想

1年間の授業終了時（2012年度）、前期の終了時（2013年度）に、絵本を使った英語学習授業について学生に感想を聞いた。その中で、授業で使用した絵本の中で印象に残った絵本、その理由を問うた。

4.1 2012年度授業について

4.1.1 絵本活用の授業について

- ・英語が苦手だったが、絵本なので、本の中の英語は十分理解できた。
- ・絵本に出ている英語は今までに良く知っているもので、英文を容易に読めた。他の本を自分で読んでみたい。
- ・絵本の内容が面白いものがあり、英語の授業が楽しかった。

4.1.2 印象に残った絵本とその理由

The Very Hungry Caterpillar（1位）

Brown Bear, Brown Bear, What Do You See?（2位）

Go Away, Big Green Monster!（3位） No, David!（3位）

<理由>：

1位：幼い時に読んでもらって知っていたが、英語で読んでより好きになった。

2位：文型が単純で、動物や色の単語が繰り返し次々と出てくるので、今度はどれかなと興味深く聞けた。子どもに読んでみたい。

3位：色がきれいで、からくり絵本になっていて、モンスターの特徴がどんどん明確になり、最後

にはモンスターが好きになっていた。

3位：「No」といって叱っていたママが「Yes」といい抱きしめる様子。日本の子供のわんぱくぶりとは違っていたのが興味深い。

4.2 2013年度授業について

4.2.1 絵本活用の授業について

- ・高校時代と違った単語も出てきたが、意味が分かりやすく勉強になった。
- ・英語絵本を読む機会がなかったが、絵本を読めて良かった。
- ・絵本の内容が面白いものがあり、読み方で十分英語でも理解でき授業が楽しい。

4.2.2 印象に残った好きな絵本と理由

Brown Bear, Brown Bear, What Do You See? (1位)

Five Little Monkeys Jumping on the Bed! (2位)

Draw me a Star! (3位)

<理由>

1位：文章の流れにリズムがあり、読みやすく、覚えやすい。動物が思わぬ色で描かれている。

2位：いたずらを反省しない子猿たち、心配顔の母猿、呼び出し電話にうんざりする医者猿を見ていて楽しい。次のページの文が予想でき、いたずら子猿になった気持ちで読めた。

3位：画家が描く絵は、手書き風で印象的だった。どんどん色んな物を描き、その色が最後に虹に変わり、読み終わった時には幸せな気持ちになった。星の描き方がわかったが、私の知っている星と形が違っていた。

5. まとめ

絵本を使った英語の授業は、ある程度、学生の英語嫌い解消に役立ったと思う。教育実習を終えた学生が、保育現場で英語学習が実施されていることを確認し、その後の授業は以前より熱意を持って取り組んでいたことからそのことが実証される。

今後の課題として、一般教養英語に絵本を使った授業を実施する際には、絵本をより多方面の視点から研究する必要がある。英語教育の立場からの絵本使用であるから、英語学習目標に応じた絵本、そこで使用されている語彙、構文、文法、音素を検証する。また、学生の英語到達度目標、具体的なCAN-DOリストを作成し、幼児教育学科の学生に必要な英語の熟達度が測れるようなものを作るなどの課題が生じた。

引用文献

- 1) 京都教育大学附属京都小・中学校 英語科 (2009) 「平成21年度京都教育大学附属京都小・中学校文部科学省研究指

- 定プロジェクト『英語教育改善のための調査研究事業』報告書（2009.11.13）：18-39
京都教育大学附属京都小・中学校 英語科（2011）「平成23年度 京都教育大学附属京都小・中学校文部科学省研究指定プロジェクト『英語教育改善のための調査研究事業』報告書（2012.2.1）：22-43
- 2) 齋藤栄二（2009） 京都教育大学附属小・中学校での文部科学省指定『英語教育改善のための調査研究事業』に関する公開授業【研究分化会】文科会 講演資料：1-3
 - 3) Bill Martin Jr / Eric Carle. (1967) Brown Bear, Brown Bear, What Do You See?. Henry Hold and Company
 - 4) Eric Carle (1993) Today Is Monday ! . Philomel
 - 5) DVD 静哲人（埼玉大学教育学部 英語教育講座）リズムで体感！重要構文～仮定法まで ①リズムで体感！基礎～応用編 . ジャパンライム

参考文献

- 1) Ed Emberley (1993) Go Away, Big Green Monster ! . Little Brown.
- 2) Eileen Christelow (1989) Five Little Monkeys Jumping on the Bed. Sandpiper.
- 3) Eric Carle (1999) From Head to Toe. Puffin.
- 4) Eric Carle (1972) The Secret Birthday Message. Harper Collins.
- 5) Eric Carle (1969) The Very Hungry Caterpillar. Puffin.
- 6) Eric Carl (1995) Draw Me a Star!. Puffin.
- 7) Mary Murphy (1997) I like it when... . Harcourt Books.
- 8) Shannon, David (1998) No, David!. Blue Sky Press.
- 9) 中川李枝子、山脇百合子 (2010) おはよう. グランママ社.
- 10) 湯川笑子、高梨庸雄、小山哲春 (2009) 小学校英語で身につくコミュニケーション能力. 三省堂.
- 11) リーバーすみ子 (2010) アメリカの小学校ではこうやって英語を教えている～英語が話せない子どものための英語習得プログラム ラリミング編～. 径書房.
- 12) 大島英美 (2011) 声を出して読む英語絵本～初めてのリードアラウド～. 中央公論新書.
- 13) 外山節子監修 (2010) 英語の絵本～活用マニュアル～. コスモピア.